



滝野川

もみじ小だより

令和2年9月1日
校長 野尻史子

校長 野尻 史子

今年の夏休みは、梅雨明けとともに厳しい日差しが照りつけ、7月までとは対照的に雨も少ない日々でした。新型コロナウイルス感染症の拡大が、未だ収束の兆しも見えない中で、子供たちは窮屈な夏休みを過ごしたのではないかと、休み中も胸を痛めていました。

しかし、学校が再開して1週間、体調不良による欠席は少なく、多くの子供たちは、明るい表情で元気に学校生活を送っています。教室前に展示されている、夏休みに取り組んだ作品等を見ると、制約の多かった夏休みであっても、一人一人何かに熱心に取り組んだり、楽しく過ごす工夫をしたりした様子が窺えました。保護者の皆様には夏休み中も、課題に取り組むお子様へのご助言や、健康観察の継続など、様々にご協力いただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。本校では、引き続き「北区立学校等における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（8月20日改訂版）」を踏まえ、感染症とともに熱中症の予防対策も徹底しながら、今後の教育活動を進めて参ります。

まもるいのち ひろめるぼうさい

本校では、昨年度末、青少年赤十字に加盟しました。青少年赤十字の、『困った人、苦しむ人を見たら何とかしなくては行かない』という誰の心の中にもある気持ち（人道）。その『やさしさ』や『思いやり』の心を引き出し、育てる。そして、自分や人のいのちと健康を大切に、人間として社会のために尽くす責任を自覚し実行できる奉仕の心、広く世界を知り助け合う心を養う。』という目的に賛同したからです。北区内小学校では、17番目の加盟校です。青少年赤十字 東京支部は、これまでも都内の学校で子供たちに、まもるいのち ひろめるぼうさい 災害学習プログラムを通して「命の大切さ」を伝えてきました。本校でも今年度から土曜公開授業日にその出前授業を申請し、保護者・地域の皆様とともに「防災教室」を実施する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、青少年赤十字の事業が中止となり、それがかなわなくなりました。

そこで、8月30日～9月5日の「防災週間」に合わせ、9月5日（土）土曜授業日に、全学級で「防災教室」を本校の先生方の指導で行うことといたしました。（非公開。保護者・地域の皆様の参加は、感染症拡大防止のため見合わせます。）地震災害、台風・風水害等の非常災害時に、自分の命や身近な人・まわりの人の命を守るための知識や技能を学び、万が一の災害時に備える心構えを身に付けさせることをねらっています。

昨年は、台風によるJRの計画運休や臨時休校もあり、一時的でしたが避難所へ避難したご家庭もありました。全国各地で50年ぶりとも言われる雨量を観測する豪雨が頻発している昨今、風水害への備えは欠かせませんし、直下型地震の発生確率が高まっている東京都下においては、巨大地震発生時の対応は、常に家族全員で共通理解している必要があります。各学年の学習内容については、学年だより等でお知らせしていきます。ぜひこの機会にお子様といっしょに、ご家庭でも非常災害時における「命をまもる」行動について話題にさせていただきますようお願いいたします。

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、引き渡し訓練が実施できませんでしたが、万が一の非常災害時に慌てることのないよう、7月末に配布した文書（学校ブログにも掲載中）を、ぜひ再度ご確認くださいませようようお願いいたします。